

科目名	インターンシップ		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

#### 科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。従って本件で、単位修得のためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することを原則とする。

### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、就職支援課や教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、就職支援課で実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。また、確実な成果を上げるために、前期で開設されるインターンシップ入門を受講すること。

### 評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

#### 科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。従って、本件で、単位修得のためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することを原則とする。

### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、就職支援課や教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、就職支援課で実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。また、確実な成果を上げるために、前期で開設されるインターンシップ入門を受講すること。

### 評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本講義は「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である（「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は原則として本講義を履修すること。

#### 科目の概要

企業が求めている人材像（ビジネスマナー、社会人としての基本動作他）について学び、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識を身に付ける。インターンシップの内容、インターンシップに参加する意義を自ら探し、より良い体験の機会を得られるよう準備する。また、それらの体験をいかに活かしていくかを考え実践する準備を行う。

#### 学修目標

インターンシップとは学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一貫とし、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職には必ずしも直結しないがインターンシップを経験することで積極的な就職活動が可能となる。

内容	
1	ガイダンス・インストラクション（インターンシップ入門で学びの構え、型を学ぶ）
2	ワークショップの型を学ぶ
3	キャリアデザインを考える、企業・社会が期待する女性社員とは
4	インターンシップ研究法（検索からエントリー、マッチングまで）
5	インターンシップ体験者から学ぶ 1
6	インターンシップ体験者から学ぶ 2
7	理想的なインターンシップを体験するために
8	企業ゲストから学ぶインターンシップ 1
9	自治体ゲストから学ぶインターンシップ
10	企業ゲストから学ぶインターンシップ 2
11	企業ゲストから学ぶインターンシップ 3
12	インターンシップ報告書作成とリテラシー
13	体験の言語化とoutput
14	より良いインターンシップを体験するために（応募手続きガイダンス）
15	学びの振り返り

#### 評価

授業への参加度：振り返りメールをポイント化（60%）、適宜行う課題の評価（30%）、最終テストの評価（10%）。以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1~7ポイント（提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポ

イント、Self-evaluation1～3ポイント) レポート・課題・・・3～8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度課す)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各回の事前課題教材の学習。

【事後学修】振り返りとして48時間以内に学びの内容や各自の気づきをメールで提出。フォーマットはインストラクションで解説。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度、掲示する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

#### 科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。そのためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することが望ましい。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、就職支援課や教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、就職支援課で実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

#### 評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、1週間程度はしっかりとフィードバックし、反省点を明確化しておくこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

#### 科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。そのためには、前期に開設されるインターンシップ入門を受講することが望ましい。

### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、就職支援課や教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、就職支援課で実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

### 評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックし、反省点を明確化しておくこと。

### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

### 2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

### 3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

## 内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について、ペアワークを通して主体的かつ能動的に言語化しながら考えることから、学習をスタートする。次に、ペアワーク（言語化された双方向の意味世界共有）により得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。

なお、各開講回別に取り上げる題材のテーマ・内容は、以下の通りである。

1	ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要
2	「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい
3	「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み
4	「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待
5	「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実
6	「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方
7	「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差
8	「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常
9	「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き
10	「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？
11	「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実
12	「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実
13	「不妊治療・生殖医療の現実と新たな生命」：中年期の晩婚親側の論理と生命倫理

14	「代理出産ビジネスの現実と経済的格差による女性の尊厳への搾取」：経済的誘惑の実情
15	学習のまとめ：「暴力の連鎖と自分（非暴力・市民的不服従の観点から）」

## 評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『毎回の小レポートの内容』を指す。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(ペアワークへの取り組みと毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート』が30点、の構成にて配点し、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学修】毎講義内に提示する題材について、教員が示した論点から題材を振り返る課題を課します。「振り返り」の結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、評価に含めます。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

- 「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」
- 「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」
- 「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」
- 「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」



科目名	母子関係論		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

1. 科目の性格 :

本科目は、生涯発達の視点から母親と子どもの関係を学ぶ必修科目です。

2. 科目の概要 :

妊娠、出産、育児という過程で展開される養育者、とりわけ母親の発達とその子どもの発達の相互の関係について学びます。

3. 学修目標 :

- (1) 子どもの発達と養育者との関係について学ぶ。
- (2) 養育者としての母親の存在について考える。
- (3) 子育て支援について考える。

内容

- 1 . オリエンテーション
- 2 . 妊娠・出産と母親
- 3 . 養育者と子どもの絆の形成
- 4 . 精神的健康の保持と安定した愛着形成のための視点
- 5 . 妊娠期からの父母子の関係
- 6 . 子育て期のソーシャルサポート
- 7 . 虐待の可能性とその防止(1)
- 8 . 虐待の可能性とその防止(2)
- 9 . 虐待の可能性とその防止(3)
- ? 虐待の可能性とその防止(4)
- 11 . 子育ての力を高める・養育者としての母親の存在・親としての発達
- 12 . グループ発表 ( 1 )
- 13 . グループ発表 ( 2 )
- 14 . グループ発表 ( 3 )
- 15 . まとめ

評価

100点満点中、日常点(課題提出・小テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	ライフサイクル論		
担当教員名	塩谷 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

「人間発達心理学」専攻の学生を対象とするため、将来心理・福祉の仕事に関わる可能性も予測して、人の一生をライフサイクルととらえ、その歩みを生涯発達の視点からみてゆく。

#### 科目の概要

エリクソンのライフサイクルの理論をベースにして一生の歩みを理解すると共に、少子高齢化の進む現代社会の変化に対応する発達課題と危機、その対処方法について学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

人は、その誕生から死に至るまで生涯を通じて発達する可能性を持つ存在であるとの立場に立ち、文化や社会など周辺環境の影響や他者とのコミュニケーションによる相互作用の中で、いかにして自己のアイデンティティを確立し、発達し続けることができるのか考察を深めたい。

内容	
1	序章 人間の発達について、ライフサイクルの理論 1
2	ライフサイクルの理論 2
3	乳児期 <0~1歳>
4	幼児前期 <1~3歳>
5	幼児後期 <3~6歳>
6	学童期 <6~12歳>
7	思春期 <12~18歳>
8	青年期 <18~22歳>
9	成人前期 <22~30歳>
10	成人中期 <30~50歳>
11	成熟期 <50~65歳>
12	成人後期 <65~75歳>
13	成人後期 <75歳~>
14	女性とライフサイクルについて、講義全体の復習
15	レポートの提出とテスト

評価

授業への参加・リアクションペーパー (50%)、レポート・テスト(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業計画に記載した教科書の範囲を読んで、内容を把握して出席すること。

【事後学修】配布したレジメ・資料と教科書を読み合わせて復習し、理解を深めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】服部祥子 『生涯人間発達論』 医学書院

【推薦書】岡村祐子・松下美知子編 『新女性のためのライフサイクル心理学』 福村出版

【参考図書】馬場禮子・永井徹共編 『ライフサイクルの臨床心理学』 培風館

科目名	文化と発達		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性質：

心理専門科目「生涯発達科目」における選択科目のひとつである。

授業は講義形式だけでなく、適宜「テーマ」を設定し、ディスカッションなどの機会を設け、学生間での「思考の交流」を促す。

科目の概要：

「文化」と「教育」の観点から、子どもの認知発達のメカニズムについて学ぶ。主に、言語や表象、因果推論の発達プロセスを扱う。また、文化的・教育的背景に基づいて、今日の子どもたちがかかえる困難や発達的問題について、家庭・地域・学校などでの支援のあり方を考える。豊かな発達を実現するための環境や社会的条件とはどのようなものか多角的に検討する。

学修目標 ( = 到達目標 )

子どもの認知発達の基本的特徴を学ぶとともに、その発達的变化をもたらすメカニズムについて理解を深める。

学生は自身の卒業研究や研究と社会とのつながりを意識しながら学んでほしい。

## 内容

- 1 ガイダンス
- 2 認知発達の基礎 - ヒトから人へ
- 3 認知発達の基礎 - 感覚を通して周囲の世界の認知する
- 4 文化と言語発達
- 5 文化と概念発達
- 6 コミュニケーションの発達：情報と文化
- 7 コミュニケーションの発達：情報と教育
- 8 社会に生きる力 - 因果推論の発達
- 9 社会に生きる力 - 論理的思考の発達
- 10 社会に生きる力 - 学習とメタ認知
- 11 認知発達と支援：発達障害の発見
- 12 認知発達と支援：学習障害を考える
- 13 認知発達と支援：文化と教育(1)
- 14 認知発達と支援：文化と教育(2)
- 15 まとめ

授業の進行状況により、講義内容・順番等を若干変更することがある。

## 評価

中間試験（2回、計50点）、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	発達心理学特講		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

人間発達心理学科専門科目 生涯発達科目

科目の概要

誕生～小学校入学までの6年間の乳幼児の発達について理解し、ゼミの場で梗概 ( レジюме ) を作成してゼミの場で発表し、ゼミの全体討論を通して理解を深めることを目的にしています

学修目標 ( = 到達目標 )

- ( 1 ) 専門書を講読することを通して、子どもの発達について理解する。
- ( 2 ) 研究レポートをまとめることによって論文をまとめる体験をする。
- ( 3 ) 発達心理学特講を受講し終えるまでに卒業研究のテーマを決めるよう問題意識をもって臨んでください。

内容

第1講 オリエンテーション；テキストを配布し、担当を決める。

第2～15講 一人3節分を担当し、一回の授業に2人 ( 一人30分 ) に内容を紹介する。30分は全体討論にあてる。

レジюмеに盛り込むこと；

担当する節の要約 論点 研究計画 ( リサーチクエストョン 仮説 研究方法 )

レジюмеの構成；

各節の内容のポイントを5行程度でまとめる。

ゼミ討論で問題にしたい点を2行以内にまとめる。

この節に関連したことを卒業研究で取り上げるとしたら、どんなリサーチクエストョン ( RQ ) についてどんな方法 ( 追試・観察・参与観察・実験・臨床面接・アンケート調査・・・など、できるだけ具体的に ) で探究できるか提案する。

以上3点を A 4 版に1枚～2枚程度にまとめて、31枚プリントしてゼミの冒頭で配布する。

担当者の役割；

担当者は各節を10分でまとめあわせて30分で発表を終えるよう準備してください。

レジюмеを31名分用意して授業に臨み、発表時に配布していただきます。

【レポート課題】

以下の2つの問に回答していただきます。提出期限は1月29日午後5時

問1 . 子どもは変わる・大人も変わる 人間発達の可塑性 1～7節

問2 . 生活世界から学びの世界へ 9～12節

それぞれの節を読み、1問あたり3,000字以内でコメント作文をまとめてください。

## 評価

日常点40%とレポート60%として、100点満点に換算して評価する。総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業日に取り上げる6節分の予習をして関心をもったり、担当者に質問したい点を考えてきてください。受講者は討論に積極的に参加すること、少なくとも1回は発言していただきます。

【事後学修】その日とりあげたテキストの該当章を読み返し、学びの振り返りをする。事前予習時に記した問題点や疑問に回答しておく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房



科目名	カウンセリング基礎（技法）		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

1年次に学修した「カウンセリング基礎（理論）」の応用科目である。心理的問題を解決する方法のひとつにカウンセリングがあるが、そのカウンセリングの基本的な技法を専門的に理解を深める。その際、対人関係における自分と他人との特徴を知るといことは、人間的成長にも密接につながる性格の科目である。

#### 科目の概要

カウンセリングとはどのようなものか、またどのように進められるのかというカウンセリングの基本的な技術や技法をロールプレイなどの体験や事例を通して学ぶ。

#### 学修目標

心理的問題や悩みなどの解決する方法を学ぶため、他者との積極的関与を意識して学ぶことが求められる。そのためカウンセリングの基礎基本となる技術（技法）やカウンセリングがどのように進められるのかが身につく。したがって、何らかの心理的問題を抱える人の心の理解が深められる。

### 内容

1	はじめに（カウンセリング技法を取り巻く基礎概念）
2	カウンセリングの技法とはなにか（理論に基づく技法、進行過程に基づく技法）
3	カウンセリングの技法と効果の関係（認知の変化、情動の変化、行動の変化、生理的变化）
4	クライアントの観察技法
5	カウンセリング場面における非言語的技法
6	カウンセリングの傾聴技法（明確化、感情の反映）
7	カウンセリングの傾聴技法（言い換え、要約）
8	カウンセリングの活動技法（特定の情報、矛盾の提示）
9	カウンセリングの活動技法（解釈、情報の提供）
10	傾聴・活動技法以外のカウンセリング技法（リフレーミング、語調反射）
11	傾聴・活動技法以外のカウンセリング技法（自己開示、反復、沈黙）
12	クライアントの問題を定義づける技法
13	カウンセリングの事例研究（1）、目標を設定する技法
14	カウンセリングの事例研究（2）、抵抗とその対応方法
15	まとめ

### 評価

授業中に課す課題への解答や授業中の姿勢や態度（30%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上の出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】次回行う授業場面を想定し、1時間程度は使用するテキスト等をしっかり読んでおく。

【事後学修】1時間程度の学習時間を決めて、毎回の授業で行った重要な視点や事項をノートなどにまとめておく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用する教科書：大谷 彰 著（「カウンセリングテクニック入門」二弊社）

推薦書：福山清蔵 著（「実践カウンセリングワークブック」（日本・精神技術研究所）」

参考図書：教室で紹介する

科目名	精神保健概論		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。

#### 科目の概要

「心の健康と病理とは一体何か」を大きな問いにしながら、現代社会における心の病について考えていきます。各心の病についての知識を深めるとともに、実際の臨床現場でそのような知識をどのように生かしていくのかを具体的な事例と共に学んでいきたいと思ひます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

精神保健の対象について縦断的および横断的に理解する。

授業で学んだ内容について、自分なりの活かし方を習得する。

#### 内容

1	イントロダクション 授業の取り決め
2	文化の中の精神保健
3	理論と精神保健
4	発達と精神保健
5	病態水準論
6	神経症
7	精神病-統合失調症
8	精神病-うつ
9	人格障害 1
10	人格障害 2
11	発達障害
12	精神保健を実践する
13	精神保健を実践する
14	精神保健を実践する
15	まとめ

#### 評価

各回のレポートが20点、テストが80点とし、総合評価60点以上を合格とする。

ただし、事例発表を行った者には30点を予め付与する。

## 授業外学習

【事前準備】発表を行う者は事例のまとめ

【事後学修】関連文献を読んでくる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦書】講義時に提示します。

【参考図書】講義時に提示します。

科目名	幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

1. 科目の性格 :

本科目は、これまで学んできた発達心理学や教育心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。

2. 科目の目標 :

乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。

3. 学修目標 :

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
- (3) 発達の支援に関する理解。

内容

1. オリエンテーション
2. 発達とは 発達の課題とは
3. 発達の基礎理論
4. 胎生期～周産期の心理臨床
5. 新生児期の心理臨床
6. 乳児期の心理臨床 (1)
7. 乳児期の心理臨床 (2)
8. 幼児期の心理臨床 (1)
9. 幼児期の心理臨床 (2)
10. 幼児期の心理臨床 (3)
11. グループ発表
12. グループ発表
13. グループ発表
14. 発達の支援
15. まとめ

評価

授業への参加度 ( 課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など ) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが60点に満たない場合は、不合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書該当部分を予め読んでおいてください。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に基づいて、講義の復習をしてください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著（2015）『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	児童期の心理臨床		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

児童期の心理学と関わりが深く、児童期における精神面の発達上の問題 ( 問題行動や不適応、精神的疾患など ) について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援方法などを深める性格をもつ科目である。

#### 科目の概要

この科目は、児童期において、主に心理的な要因によって問題行動や症状を出している子どもやその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者が関わりを重視しつつ行う支援活動を学ぶ。

#### 学修目標

幼児期から思春期が始まるまでの子どもたちが直面するさまざまな心理的問題の理解とその対応について、たとえば、発達障害やいじめ問題、不登校等の問題について、児童期における事例を通してその知識と理解を深める。したがって、日頃から新聞やニュース等で関連のある出来事について意識しておくことが望ましい。

#### 内容

1	はじめに ( 児童期における問題行動と種類、行動問題の規定要因 )
2	問題と症状からみた子ども理解 ( 病因論を中心とした問題の理解 ) ( 1 )
3	問題と症状からみた子ども理解 ( D S M を中心にみた子どもの問題 ) ( 2 )
4	児童期におけるいじめ問題 ( いじめの概要、いじめに関する研究 )
5	わが国の心理臨床における子どもの問題の特徴
6	子どもとストレス ( 事例からの考察、生徒指導上の諸問題、不登校 )
7	不登校 ( 引きこもり ) 問題とその対応 ( 専門機関との連携、ペアレントトレーニング等 )
8	児童期における心理的問題に対する方法 ( 聞き取りの仕方、面接方法等 )
9	子どもの心理的問題に対するセラピー ( 遊戯療法及び箱庭療法 )
10	心理的問題を抱える児童への実践的対応 ( 認知行動療法、S S T、心理教育 )
11	子どものセラピーにおける基本的課題 ( 支援モデル、基本的態度と姿勢 )
12	子どものセラピーにおける基本的課題 ( 初回面接における課題 )
13	子どものセラピーにおける基本的課題 ( セラピー過程における課題 )
14	心理的問題を抱える子どもの事例考察
15	まとめ

#### 評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題 ( 3 0 % )、筆記試験 ( 7 0 % )、2 / 3 以上の出席を必須とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】1時間程度は、使用するテキストをきちんと読んでおくこと。

【事後学修】1時間以上は、毎回授業で活用するノートを整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用教科書：「子どもの心理臨床（著者 永井徹）」金子書房

推薦書：「スクールカウンセリングマニュアル（著者 秋山千枝子）」日本小児医事出版社

参考図書：教室で紹介する



科目名	青年期の心理臨床		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目である。1年次に必修科目となっている「臨床心理学概論」や「発達心理学概論」、生涯発達領域の「青年期の心理学」などとも関連が強い。特に「心理検査法応用」に必要な基礎的な心理学的理論をここで学習する

#### 科目の概要

青年期とはいかなる時期であり、その時期に生じやすいところの問題がいかなるものであり、そしてそのような心理的問題に対していかなる対応がなされるのかについて、理解を深める。特に具体的な事例を取り上げながら、学習を行うことで、心理学的な問題理解の基本を身につける。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ 心の問題の知識及び対応方法を学ぶ。

#### 内容

1	Introduction
2	大人になること まとまりのある心へ
3	大人になること 母親は他人
4	大人になること 親から離れる
5	大人になること 身の丈を知る
6	大人になること 愛することと働くこと
7	心の病って何だろう
8	精神病のこころとそのケア
9	パーソナリティ障害のこころとそのケア
10	パーソナリティ障害のこころとそのケア
11	発達障害のこころとそのケア
12	神経症のこころとそのケア
13	ケアとは何か 覆いをつくること、覆いをとること
14	青年期の心理臨床
15	まとめ

#### 評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし

【推薦書】 適宜指示する

【参考図書】 適宜指示する

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 1. 科目の性格

本科目は、前期開講の心理学科必修科目「中高年期の心理学」で得た現実認識を前提に、今、実際に生きている人々の語りを手掛かりとして、中高年期の心理へのより深い理解を目指し、開講する。

### 2. 科目の概要

世界中で起きているさまざまな現実のひずみに関し、人は、自らの心の平穏を保つために「あえて見ないようにする」ことがある。また、仮に自分の目に入っても、自分の耳に聴こえてきても、「他者がそのような状況にあるのは分かったけれど、自分は体験したことがないので、リアルに感じられないから」と理由をつけ、気にかけてない・働きかけない・自分に出来ることをしないとといったことをする場合がある。本科目は、このような現実認識を前提に、中高年期の諸課題を、他者の「語り」を通して、実感的に理解を進める方途とスキルの獲得を目的とする。

### 3. 学修目標

本科目は、「体験してないから分からない」という論理の中にいる自分に気づき、その上で、世界中の中高年の現実に対し、一人の市民として、自らが貢献し得る知識と技術とは何かを考え、その習得を目標とする。

## 内容

本科目では毎講義回、学習方法に「ペアワーク（双方向に言語化が試みられた結果としての『異なる意味世界』の共有実践）」を用いる。ペアワークでは、我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材とし、その題材内容・論点に対する自らの有り様・立場について、主体的かつ能動的に言語化しながら考えることを課す。次に、ペアワークにより得た「気づき」を前提に、関連した専門知識を講義形式により学習する。各開講回に取り上げる題材のテーマは、以下の通りである。

1	講義の進め方と成績評価方法の説明と、次回までの課題を提示
2	「最先端の科学技術と更新されにくい倫理観と自分」：晩婚化する中年期女性の新たな苦悩
3	「母親としての中高年期と自分」：出生前診断の発達と障害を持つ子の親になること
4	「ボランティアな他者への慈しみと自分」：家族を守る役割と中年期女性(骨髄バンクの現実)
5	「出産することと自分」：新生児医療と初産女性が直面しやすい現実(パルモア病院の取組み)
6	「障害を持った子どもは、とりわけ育児が難しいのか？」：ダウン症児への育児的関わり
7	「セクシャルマイノリティと自分」：文化再生産の担い手としての中高年期と少数派差別
8	「文明と自分(自分が幸せなのは文明的だからなのか?)」：ヤノマミ族の生活と幸せの条件
9	「養子縁組で親子関係を創ることと自分」：養子を迎えるまでの中年期夫婦の日々
10	「老親介護で自分は何を重視するのか？」：中年期の実親への介護と、外国人労働者の上昇志向
11	「人間の命の重さと商業主義と自分」：H I V コピー薬と特許保護を主張する企業の論理
12	「「エコな生活を志向する自分と世界」：洗剤原料生産のプランテーション農業と日常生活
13	「無縁社会と自分」：無縁死・孤独死していく高齢者と他者との繋がり

14	「生涯未婚と自分」：血縁・地縁・婚姻縁に頼った繋がり方を越えた高齢期の新たな関係観
15	学習のまとめ：新たな中高年期を生きる世界市民として、自分を見つめて

## 評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『ペアワークへの取り組み姿勢』と『毎回の小レポートの内容』を指す。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(ペアワークへの取り組みと毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート』が30点、の構成にて配点し、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】次回の講義内容に関し、事前に発想を深めてほしいポイントを提示し、講義回当日のペアワークの基礎とする予習を課します。

【事後学習】毎講義内に提示する題材について教員が示した論点から題材を振り返る課題を課します。振り返りの結果は、毎回「小論文形式のレポート」にて提出を求め、主要な評定材料とします。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2007年11月号(特集：食べもの人間)」

「Days Japan 2007年3月号(特集：写真版 世界がもし100人の村だったら)」

「Days Japan 2006年12月号(特集：最底辺の子どもたち)」

「Days Japan 2006年2月号(特集：貧困)」

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

##### 科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )：

1. 障害の理解。
2. 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
3. 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

#### 内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは
- 3 自閉<sup>o</sup>外<sup>o</sup>症児・者の心理学的特徴と支援 ( 1 )
- 4 自閉<sup>o</sup>外<sup>o</sup>症児・者の心理学的特徴と支援 ( 2 )
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援
- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 グループ発表 ( 1 )
- 13 グループ発表 ( 2 )
- 14 グループ発表 ( 3 )
- 15 まとめ

#### 評価

100点満点中、日常点 ( 課題提出・小テスト・授業態度・発表など ) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

#### 授業外学習

【事前予習】講義予定の教科書あるいはプリントの該当ページを予め読んでおいてください。

【事後学修】講義終了時に毎回課題を出しますので、それに基づいて当該講義の復習をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

科目名	障害者の発達支援		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

LD・AD/ HD・ASD・等の発達障害を中心に障害一般について障害特性および心理学的特徴について基礎的な知識の定着、および障害児・者への具体的な支援に応えることができる。

#### 科目の概要

現場で活かせる支援方法について实际的に授業を進める。実践例の検討、フィールドワーク、グループによるロールプレイを通して实际的・実践的に学ぶ。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

・障害当事児・者の個々のニーズに合わせた支援内容・方法について深める。アセスメントに基づき、支援計画が作成できる。

#### 内容

1	学校における現状と課題
2	LDの理解と支援 疑似体験
3	AD・HDの理解と支援
4	ASDの理解と支援
5	心理検査 ( WISC ) 結果解釈と支援方法
6	感覚統合による支援
7	ソーシャルスキルトレーニングによる支援
8	二次障害の理解と支援 ( 1 ) : 不登校
9	二次障害の理解と支援 ( 2 ) : ひきこもり
10	学校における支援体制 ( 1 )
11	学校における支援体制 ( 2 ) : コーディネーターの役割
12	個別の支援計画と支援方法の検討
13	保護者との連携・地域との連携
14	社会的自立・就労の問題
15	まとめ

#### 評価

試験による評価 ( 70% ) 中間レポートによる評価 ( 20% ) 平常の参加度の評価 ( 10% ) とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援方法について再確認をする。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通して、実際の現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。

【推薦書】軽度発達障害の心理アセスメント WISC- の上手な利用と事例 日本文化社

【参考図書】自閉症ガイドブック シリーズ1 2 3 日本自閉症協会



科目名	心理療法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

学科専門科目の心理臨床科目の科目で、臨床心理学の基礎を既に学んだ者を対象とする。

心理臨床にたずさわる者として、理解しておくことが望まれる理論がいくつかある。そこで、本科目ではそれらのうち代表的な理論をいくつか取り上げ、基礎知識を習得することをねらいとする。

【科目の概要】

心理療法の歴史をひもとき、どのようにして現在のような心理療法が誕生してきたかを探る。また、それぞれの心理療法の特徴について紹介する。

【学修目標】

心理療法の主たる理論について理解する。心理臨床に関する各理論について学びを深め、日常生活の中でカウンセリング・マインドの実践ができるようになることを目標とする。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	はじめに～心理療法の歴史
2	ロジャース派
3	精神分析 フロイトとその後継者たち
4	ユング派
5	行動療法
6	家族療法学派
7	遊戯療法
8	箱庭療法
9	認知療法
10	認知行動療法
11	催眠療法、自律訓練法
12	アドラー心理学
13	ゲシュタルト療法
14	内観療法
15	ブリーフ・セラピー

評価

授業中の参加態度や提出物35%、発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

## 授業外学習

【事前予習】事前に該当する心理療法について調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館 2003

【参考書】乾吉佑他編『心理療法ハンドブック』創元社 2005

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	伊藤 恵子、綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを実習を通して具体的に理解する科目です。

#### 科目の概要

いくつかの臨床現場（医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や機関、社会福祉関連の施設や機関）に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがいます。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行います。

#### 学修目標

知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているか、現場で「心理学を活かすこと」にどんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深めます。さらに、受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化することを目指します。

#### 内容

1. 現場（医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定）への見学等が学習活動に含まれます。
2. 現場見学にあたっては、事前のガイダンスを実施します、事後のまとめを実施します、見学にかかる経費（交通費など）は受講生の自己負担となります。
3. 見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります（例えば集中講義期間、春期休業期間）。
4. 現場見学を行うために、受講生の人数（上限）を設定します。
5. 見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

#### 評価

見学ごとのレポート（100点）にて評価し、総合評価60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

- 【事前予習】見学予定の施設に関して事前に十分学習し、見学の視点を明確にしておいてください。
- 【事後学修】各施設の見学で学んだことを整理し、最終的にレポートを作成してください。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】事前ガイダンスにて、お伝えします。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジюмеの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

##### 科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

##### 学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

#### 内容

##### 導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

##### 研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

#### 評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること。

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめる。

学修目標

- ・英語文献を効率的に読むことができる
- ・英語文献の要点を読みとることができる
- ・英語文献の内容を理解しまとめることができる
- ・英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子を知る

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

評価

毎回の小レポート50点、期末テスト50点。合格点60点。

授業外学習

- 【事前予習】当該箇所を事前に読んで訳してくること
- 【事後学修】授業内で読んだ箇所と自分の訳とを照らし合わせて復習すること

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

授業時に指定する。M.Cole「the development of children」, 「Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology」などから抜粋して読む予定。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識がもためられるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

##### 学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

#### 内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 ( 2検定 )
- (6) 2つの平均値の差の検定 ( t検定 )
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 ( 因子分析 )

#### 評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ予習をしてくる。

【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。



科目名	心理学実験実習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理実験に関わる一通りの過程を実習する。

すなわち、(1)仮説をたて、(2)実験を計画し、(3)データを取り、(4)データを解析し、(5)報告書にまとめ、(6)口頭でも報告する。

これらは卒業研究の作成に必要な基礎知識でもある。

各自が卒業研究のテーマを見つけるきっかけにしたい。

#### 科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて、データを取り、統計解析して、結果をレポートにまとめる。

#### 学修目標

目標とするのは、(1)心理学的な問題設定の能力、(2)素データを見抜く眼力、(3)統計手法を用いたデータの吟味、そして(4)文章作成能力の涵養である。

これらを通じて人間の心の不思議な働きや、心理学実験の面白さを実感する。

#### 内容

本演習では、自らが実験者および実験参加者となり、体験を通して、人間の情報処理のメカニズムを考えます。

受講者および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更になることがあります。

- 0 1 . 心理学実験について ガイダンス
- 0 2 . 視知覚に関する実験：解説
- 0 3 . 視知覚に関する実験：測定
- 0 4 . 視知覚に関する実験：解析
- 0 5 . 注意に関する実験：解説
- 0 6 . 注意に関する実験：測定
- 0 7 . 注意に関する実験：解析
- 0 8 . 視知覚と注意に関する実験のまとめ ( グループでの発表 )
- 0 9 . デザインと印象評定：解説
- 1 0 . デザインと印象評定：測定
- 1 1 . デザインと印象評定：解析
- 1 2 . 記憶に関する実験：解説
- 1 3 . 記憶に関する実験：測定
- 1 4 . 記憶に関する実験：解析

## 15. 印象評定と記憶に関する実験のまとめ（グループでの発表）

### 評価

授業時の小課題30点、レポート課題50点、口頭発表20点の計100点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】前回実習での要点を復習し、続く実習での展開に備える

【事後学修】進度に応じた課題を出すので、自らの力で取り組む

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	社会調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習は、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を利用するため、受験者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は、初回の授業で選考を行なうので、必ず出席すること。

#### 内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行なう。実習は、調査テーマに関わる心理特性を測定する心理尺度項目を作成する調査を行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、授業内で調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 仮説の検討例 (相関分析、 $\chi^2$ 検定など)
14. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)
15. レポート作成ガイダンス

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

#### 評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

#### 授業外学習

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、統計関連の配布資料やテキストを見直してくること。

【事後学修】授業内で行なった作業（質問項目の選定、データセット作成等）について、次の授業の際に不足がないよう、授業を振り返りながら準備を進めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

\* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

科目名	心理検査法応用		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

「心理検査基礎実習」の応用となる科目である。「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。

#### 科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. こころを理解するとはどういうことなのかを学ぶ
2. 心理検査の実施、結果の分析を学ぶ

内容	
1	イントロダクション 心理学すること
2	主訴と生育歴
3	主訴と生育歴
4	バウムテスト再考
5	スクイグルゲーム 関係すること
6	スクイグルゲーム 遊ぶこと
7	風景構成法入門
8	箱庭療法 概論
9	箱庭療法 ビデオを見る
10	言語連想実験
11	言語連想実験
12	ロールシャッハテスト 体験
13	ロールシャッハテスト 解釈
14	事例研究
15	まとめ 見立てとは

#### 評価

学期中に5種類の心理検査についてのレポートを提出してもらう。すべて提出したうえで、ひとつにつき最高20点で採点を行い、総合評価60点以上を合格とする。なお、欠席した授業についてのレポート提出は認めない

## 授業外学習

【事前予習】指定した領域についての心理学文献をひとつ以上読んでくること

【事後学修】行った心理検査について文献を調べると同時に、検査結果についてレポートをまとめる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】適宜支持する

【参考図書】皆藤章編 臨床心理査定技法 臨床心理学全書7 誠信書房

科目名	行動観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察から行動の記述ができる
- ・行動の記述から行動の意味を考察することができる
- ・観察から行動の分析ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート ( 60% )、期末レポート ( 30% )、平常点 ( 10% )。合格点は100点換算で60点。

授業外学習

- 【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を確認しておく
- 【事後学修】課題として観察を行った結果を見直して報告 ( レポート ) をまとめる

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

[ 推薦書 ] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	カウンセリング技法入門		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

「臨床心理学概論」を基礎としたうえで、「カウンセリング基礎 」、「カウンセリング基礎 」、の応用科目である。

##### 科目の概要

実践的な演習を通して、カウンセリングの技法を習得することをねらいとしている。DVDによる映像教材及びロールプレイを行うことで、カウンセリング技法を復習する。その後、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウンセリングを行う。録画したDVDと発話を逐語録にしたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。したがって、授業時間外に2, 3時間の事前学習が必須である。

##### 学修目標 (= 到達目標)

- ・カウンセリングの疑似的体験を通して、カウンセリング技法の理解を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウンセリング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

#### 内容

1. イントロダクション 授業の説明
2. カウンセリング技法 - 聴く
3. カウンセリング技法 - 訊く
4. カウンセリング技法 - 考える
5. 試行カウンセリングの実践と討議
6. 試行カウンセリングの実践と討議
7. 試行カウンセリングの実践と討議
8. 試行カウンセリングの実践と討議
9. 試行カウンセリングの実践と討議
10. 試行カウンセリングの実践と討議
11. 試行カウンセリングの実践と討議
12. 試行カウンセリングの実践と討議
13. 試行カウンセリングの実践と討議
14. 試行カウンセリングの実践と討議
15. まとめ

#### 評価

各回のレポート提出が20点、提出物40点と期末レポート40点で総合評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習



【事前予習】 試行カウンセリングを実施し、逐語録を作成する。

【事後学修】 試行カウンセリングの討議をもとに、振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 指定しない

【参考図書】 授業で適宜紹介する

科目名	発達・教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

発達心理学科の研究法・実習領域の科目である。学校現場で生じる問題について、事例やロールプレイングを通して相談の手順や対応方法について、具体的かつ実践的に学ぶ。「教育相談」「健康相談活動」「心理療法」等と関連がある。

#### 科目の概要

不登校やいじめなど問題を抱える子どもたちへの対応方法について、ロールプレイングなどを通して体験的に理解する。また、発達・教育相談の技法を習得するのみならず相談担当者としての資質も含めて総合的に学習する。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れたいと考えている。

#### 学修目標

発達・教育相談に関する基本的な知識を身につける。

卒業後、心理・福祉・教育などの現場で相談に携わる際に役立つ実践的スキルを身につける。

#### 内容

予定する講義内容は以下の通りである。

受講にあたって、教職履修などの条件は設けない。ただし、本講義はロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	エンカウンターグループ
3	よい聴き手と悪い聴き手とは？
4	演習：子ども編 問題がわからない子ども
5	演習：子ども編 なかなか打ち明けない子ども
6	実践：発達・教育現場で用いることができる心理療法 遊戯療法
7	演習：子ども編 問題行動が見られる子ども
8	演習：子ども編 こころの不調を訴える子ども
9	実践：発達・教育現場で用いることができる心理療法 描画療法
10	演習：親編 困難な保護者への対応
11	演習：親編 保護者のメンタルヘルスを考える
12	実践：相談室を作ってみよう 構造からカウンセリングを学ぶ
13	演習：教師編 教師のメンタルヘルスを考える
14	演習：緊急対応・地域連携編 震災から学ぼう
15	まとめ

## 評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

## 授業外学習

【事前予習】事前に内容に即した事例や資料を調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる、関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

##### 科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

##### 学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

#### 内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

#### 評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動受け入れ先の責任者が認めた活動報告 ( 50点 ) と、レポート・口頭発表 ( 計 50点 ) により、総合的評価 60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識 / 態度 / 技能を活用できるようにしておく

【事後学修】こどもたちとの関わりの具体的 / 表面的な事柄にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察すること

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援 Q & A 70』 明治図書

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

#### 科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

#### 学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

## 内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション ( 要請承諾・説得 )
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

## 評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である。

科目の概要

対人社会心理学とはなにか ( 講義1 )

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展 ( 講義2,3,4,5 )

他者とのコミュニケーション ( 講義6,7,8,9,10 )

他者への行動 ( 講義11,12,13,14 )

学修目標 ( = 到達目標 )

人間関係についての心理学的な知識を身につけ、更にその知識を現実場面で応用できるようにすることを学修目標とする。

- ・親密な他者の関係を客観的に見られるようにする。
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につけ、その知識に基づく行動を現実場面でとれるようにする。
- ・攻撃や排斥のような他者を傷つける行動と援助やサポートのような他者を助ける行動に影響する要因を理解する。

内容

1	対人社会心理学とは何か
2	親密な関係の構造
3	親密な関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊と喪失
6	自己開示と自己呈示
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：自分を主張する
9	要請承諾
10	説得
11	攻撃
12	排除
13	援助
14	サポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題 ( 30% )、試験 ( 70% ) とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

ただし1/3以上の欠席は単位不認定とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱うテーマについて、興味のある点を見つけ出す。

【事後学修】レジユメを読み返し、学習内容を理解する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する

【参考図書】セレクション社会心理学 サイエンス社



科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 公民 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人社会心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容	
1	ガイダンス：対人魅力とは何か
2	好意をどのようにして測定する？
3	側にいる人を好きになる？好きな人の側にいたい！
4	美しい人を好きになる！美しい人に幻滅する！
5	美しく装って魅力を高める - 被服・化粧と対人魅力 -
6	人の心をひきつける性格
7	自分と似た態度を持つ人を好きになる！
8	能力が高い人は本当に好かれる？
9	中間テスト
10	魅力を高める自己開示・自己呈示
11	傷ついた時に側にいてくれる人を好きになる？
12	相手から好かれることの効果
13	環境条件と魅力の関連
14	対人関係の親密化～魅力が力を発揮する時
15	対人関係の進展と崩壊

評価

期末テスト70点+中間テスト30点により評価を行い、60点以上を合格とする。出席については、2/3以上の出席が必要。満たさない場合には、単位は取得できない。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて自分で調べて予習してくる

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

#### 内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

#### 評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

#### 授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	産業・組織心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、産業場面、組織場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

#### 科目の概要

本科目では、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、リーダーシップ、職場のストレスなどを扱う。社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象について講義を行う。

#### 学修目標(=到達目標)

さまざまな心理学の知識を、産業、組織、働くという場面にどのように応用可能かを考えながら、産業・組織心理学について理解を深めることを目標とする。

内容	
1	産業・組織心理学とは何か? - ガイダンス -
2	ホーソン研究: 物理的環境か心理的要因か
3	作業に関わる心理学: 社会的手抜きと補償
4	仕事への動機づけ研究1: KJ法について
5	仕事への動機づけ研究2: 欲求階層・ERG理論
6	仕事への動機づけ研究3: 内発的動機・外発的動機
7	公正感と自発的行動
8	組織コミットメントと役割外行動(組織市民行動)
9	組織の中でのコミュニケーション: 集団分極化
10	対人葛藤: プラスの効果・バーンアウト
11	リーダーシップ1: 偉人論・特性論
12	リーダーシップ2: PM理論・ライフサイクル理論
13	上司と部下の関係構築: 投資モデルの援用
14	職場での行動の獲得・学習: PDCAサイクル
15	まとめ

#### 評価

小テストあるいはミニレポート(計50点)、期末試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。小テストを行うこともある。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

指定しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

##### 【推薦書】

山口裕幸/金井篤子(編)・「よくわかる産業・組織心理学」・ミネルヴァ書房

田尾雅夫(編)・「組織行動の社会心理学」・北大路書房

小口孝司/楠見孝/今井芳昭(編)・「仕事のスキル」・北大路書房

原マサヒコ・「トヨタのPDCA」・あさ出版

科目名	キャリア心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。発達心理学概論、青年期の心理学、社会心理学概論などを基礎とする応用科目である。職業興味や適性検査なども実施するため心理検査法とも関連する。

キャリアとは、強いていえば職業経歴という意味である。そこには、単純にどのような仕事の履歴を持っているかということだけでなく、ある仕事に就くまでに、そして仕事についてからの職業活動を通して、内面をどのように発達させてきたかという心理的な側面が多分に含まれている。キャリア心理学は、私たちがどうやって職業を選択しどうやって職業人となっていくのか、働くことの意味は何かといった問題を考える。本講ではキャリアに関わる心理学的知見についてわかりやすく解説するとともに、適性検査や自己分析など必要に応じて実践的な内容も取り入れながら授業を進めていく。

これまで学んできた心理学の知識をキャリアという領域にどのように応用可能かを考えながら、キャリア心理学について理解を深めることを目標とする。またそれだけでなく、就職を目前に控えた受講生にとって自身の職業選択や職業生活のイメージを具体化する契機となることもあわせて目標とする。

#### 内容

- (1) キャリアとは何か
- (2) 職業選択と進路決定
- (3) キャリア発達の理論
- (4) 職業とアイデンティティ
- (5) ワーク・モチベーション
- (6) 現代の就職活動
- (7) キャリアと自己効力感
- (8) 職場におけるノンバーバル行動の重要性
- (9) 現代社会の職業問題
- (10) まとめ

#### 評価

期末テスト80点+授業内の課題 ( 自己分析などの課題や心理検査への参加 ) 20点により評価を行い、60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】 次の授業でとりあげる用語について調べて予習をする

【事後学修】 授業内容についてノートを整理し復習する

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	消費行動の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人々は社会生活を維持するために、消費を行なっている。消費に関わる行動は、人々の日常生活に根づいているために、その行動の説明や予測については様々な研究者が関心を寄せてきた。消費行動は、人々が製品やサービスを取得し、消費し、処分する際に従事する諸活動と定義されており、様々な活動が含まれている。たとえば、なぜ人々はブランド物を選ぶのか、どのようにすれば購買や消費を促進できるのか、どのような広告が効果的かなどが消費行動の心理学で扱われてきたテーマである。本科目では、隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた消費行動研究を紹介することによって、消費行動を科学的に理解することを目的とする。

#### 内容

1	消費行動とは何か? - ガイダンス -
2	消費行動のプロセス ( ブランド選択の心理 )
3	計画購買と非計画購買 (1)
4	計画購買と非計画購買 (2)
5	価格の知覚判断 (3)
6	価格の知覚判断 (4)
7	ライフスタイルの違いと消費行動
8	消費行動の背景にある価値観の捉え方
9	中間テスト
10	口コミと購買意思決定
11	インターネットを通じた消費者間コミュニケーション
12	消費者行動とマーケティング
13	消費行動と広告
14	消費行動と広告
15	世界の市場を見据えたマーケティング

#### 評価

試験70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。出席が2/3に満たない場合、単位は取得できない。

#### 授業外学習

【事前予習】消費行動の心理学は応用領域の講義であるため、授業内で指示された心理学の内容について配布資料や図書などで調べてくること。

【事後学修】授業内で取り上げた内容について、実際に店舗やCM、広告等をよく観察し、どのように利用されているか、整理しておくこと。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する

科目名	職場のメンタルヘルス		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

社会人のメンタルヘルスに関する内容であるため「健康心理学」や「産業・組織心理学」との関連が強い。また「臨床心理学概論」の内容をベースとしている

#### 科目の概要

産業領域でのメンタルヘルスケアについて学習を行う。現代社会にあって労働とは何か、そもそも働くとはどういうことを踏まえながら、働くうえで人はいかに病み、そしていかにケアされるのかについて考えたい。受講生のうち、希望者は「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」を受検することができる。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・現代社会における労働とは何かを学ぶ
- ・社会人が体験する病い、ストレス、及びストレス・マネジメントの重要性や方略を学ぶ。
- ・希望者は、メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格を目指す。

#### 内容

1. イントロダクション 働くことと愛すること
2. 21世紀の働き方
3. 企業カルチャーの心理学
4. キャリア論 就職・転職・退職
5. メンタルヘルスケアの意義
6. ストレスおよびメンタルヘルスケアに関する基礎知識
7. セルフケアの重要性
8. ストレスへの気づき方
9. ストレスへの対処、軽減の方法
10. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
11. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
12. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
13. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
14. メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定問題と解説)
15. まとめ

#### 評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする

## 授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 その回の内容、および練習問題を満点とれるまで復習する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース」 中央経済社

推薦書 春日未歩子 「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース 過去問題集」 中央経済社

科目名	家族心理学		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

乳幼児期～成人に至るまでの個人の発達プロセスについては、既に学んでこられたことと思います。世代の異なる家族メンバーが、家族という関係の中でどのように出会うのか、ともに生活する中で、どのように関係を作り、どのように発達していくかについて考えます。

#### 科目の概要

この科目では、現代の家族問題について考えます。ジェンダーを主要な切り口に、家族心理学の知見に触れながら、親子関係や夫婦関係など、家族という人間の営み・家族関係にまつわる心理が、いかに社会文化的に規定されているものであるかを理解してほしいと思います。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. 家族メンバー間の人間関係のダイナミクスを理解する視点を養う。
2. 家族という関係は、ジェンダーや社会・文化、時代と深く関わっていることを理解する。
3. 自分の家族体験や家族観を相対化する視点を持つ。

#### 内容

1	近代家族イメージの成立 (テキスト1, 3, 4章)
2	現代の家族 (テキスト2, 5, 6, 7章)
3	現代女性のライフコースと家族 (テキスト21章)
4	育児ストレスとは何か (映像資料視聴)
5	育児ストレスはなぜ起こるか (テキスト18章)
6	家族役割分担 (テキスト8, 9章)
7	日本の夫婦関係 (テキスト10, 11章)
8	性別役割分業とワーク・ライフ・バランス (テキスト12, 13章)
9	家族ストレス (テキスト29章)
10	現代の親子関係 (テキスト14, 15章)
11	親子関係の発達 (テキスト14, 15, 16, 17章)
12	家族システム論 (テキスト23, 25章)
13	家族カウンセリング (テキスト20章)
14	新しい家族のかたち (テキスト27, 28, 30章)
15	まとめ

#### 評価

授業内での提出物（感想のコメントペーパー含む）60%，最終課題40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章（「内容」欄参照）を読み，わからない用語を調べ，図表の読み取りをしておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。

【事後学修】テキストの該当章と授業ノートをふり返り，授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり，発展的な学習をすること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス

【参考図書】授業中に紹介します。

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理専門科目における選択必修のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

#### 科目の概要

人間は五感を通して外界の情報を受け取り、その情報を脳で処理することにより、何らかの反応や行動に至っている。本講義では、その情報処理のプロセス ( 人間の記憶や注意、思考などの認知機能 ) について心理学的なモデルや理論を平易に解説する。授業では映像や簡易実験などを用いて、体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指す。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

評価基準となる学習到達目標は、

- 1 ) 認知心理学の基礎となるモデルや理論について、日常的な行動との対応を説明できるようになること
- 2 ) 実証的な認知心理学研究法を理解すること

学生は自身の卒業研究におけるデザイン ( 研究方法、実験計画 ) など意識しながら学んでほしい。

#### 内容

- 1 ガイダンス
- 2 認知の神経的基盤
- 3 視覚の神経的基盤
- 4 視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
- 5 視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
- 6 認知心理学研究法
- 7 注意 - 選択的注意
- 8 注意 - 注意と記憶
- 9 記憶と学習 - 記憶の構造と理論
- 10 記憶と学習 - 記憶のプロセス
- 11 知識表現 - 意味ベースの知識表現
- 12 知識表現 - 知覚ベースの知識表現
- 13 思考と言語 - 演繹的推論
- 14 思考と言語 - 帰納的推論
- 15 まとめ

#### 評価

中間試験 ( 2回、計50点 )、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む。

【事後学修】確認テストなどを通して、自分自身の理解に対する「ふりかえり」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント資料を使用する。参考図書・推薦図書と併せて、授業時に適宜図書を紹介する。

科目名	性格心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

人間発達心理学科における生活科目領域の科目です（他学科開放あり）。心理学を初めて学ぶ人を対象として、人を理解する方法として「性格」を学びます。

#### 科目の概要

一般社会の中で広く使われる日常語としての「性格」は、各種メディアが日々提供する「血液型性格診断」や「各種チャート式性格診断」を通じて多くの人々に慣れ親しんでいます。しかし、正式な学問としての「性格心理学」からは遠くかけ離れた存在です。そこで、「性格とはなにか？」からスタートし、「作られ方」「影響」「病との関係」「問題行動との関係」など、「性格」を学術的に学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

本講義では、一般で得られる「性格」と、学問である「性格心理学」との差異を理解し、最終的には日常の言動を性格心理学の観点から説明できるようになることを目指します。

内容	
1	イントロダクション（講義内容の説明）
2	性格とは何か（いわゆる“性格”というものを考える）
3	性格と人格-1-（科学的な考え方を学ぶ）
4	性格と人格-2-（古代から現代までの理論から考える）
5	性格と人格-3-（代表的な性格理論を学ぶ）
6	性格の作られ方-1-（性格形成論を学ぶ・前編）
7	性格の作られ方-2-（性格形成論を学ぶ・中編）
8	性格の作られ方-3-（性格形成論を学ぶ・後編）
9	性格の影響-1-（自分と周囲の人たちとの関係を考える：対人コミュニケーション方法）
10	性格の影響-2-（自分と周囲の人たちとの関係を考える：適応と不適応）
11	性格と適正（趣味・仕事と性格の関係を学ぶ）
12	性格と健康（病気と性格の関係を学ぶ）
13	性格の異常（問題行動と性格の関係を学ぶ）
14	性格の理解と修正（みる・きく・はかる、心理検査法と心理療法のはなし）
15	総合まとめ

#### 評価

平常点（通常講義内に課されるレポート他）を30点、筆記試験を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、再試験をおこなう。



公欠扱いになる病気（出席停止）・忌引き・交通機関による遅延等の試験欠席事由があり試験を欠席した場合は、追試を受験できます。

#### 授業外学習

【事前準備】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認する。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井 豊 共著『性格心理学への招待[改訂版]』2003 サイエンス社

【推薦書】清水弘司 著『はじめてふれる性格心理学』1998 サイエンス社

【参考図書】講義中に適宜紹介します

科目名	食の心理学		
担当教員名	堀川 聡司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

「食」とは、人にとって最も基本的な行動の一つです。それは生物としての生命を維持する点で欠かせないというだけでなく、文化的、心理的な側面においてもその基盤を形成するものと言えます。

この授業では、人にとっての食と心の接点を多角的に学ぶことに加え、受講生の皆様の積極的な参加を通じて、食に関する体験をより濃密に振り返る機会を提供します。

### 科目の概要

食は私たちに様々な楽しみや快をもたらす同時に、時として各種のこころの病理を構成するものとして立ち現れてきます。授業では、それらの事柄を行動科学や力動的精神医学の観点から見てゆく他、実際の治療についても学んでゆきます。

### 学修目標

食に関連する様々な心理的な事象や心理的治療についての基礎的な事柄を学ぶ。また様々な素材（治療事例や映画など）を通じて体験したことをグループでシェアし、自らの体験をさらに深める。

## 内容

- 1．オリエンテーション
- 2．食と行動科学
- 3．食と宗教心理学
- 4．ライフスタイルと食生活
- 5．映画に見られる食とこころ
- 6．摂食障害の基礎
- 7．摂食障害と人格障害
- 8．映画に見られる摂食障害の事例
- 9．摂食障害の治療事例 1
- 10．摂食障害の治療事例 2
- 11．グループ体験 1
- 12．グループ体験 2
- 13．精神分析と口唇期欲動
- 14．甘えについて
- 15．まとめ

## 評価

授業中の小レポートや発表などの平常点（50点満点）と、最終レポート（50点満点）を総合して評価する。合計で60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】これまで経験した「印象深い食体験」について思い返しておく。

【事後学修】講義で学んだ内容を振り返り、自身の日常的な食生活におけるこころの動きを内省する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 使用しない、プリントを配布する

### 【推薦書】

A.W.ローグ 木村定訳 『食の心理学』 青土社

松木邦裕 摂食障害というこころ 新曜社

土居健郎 「甘え」の構造 弘文堂

堀川聡司 精神分析と昇華

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

心理学科の選択科目である。

心や意識，記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく，

身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって，からだ」なのである。

#### 科目の概要

毎週1つのトピックについて，実習を交えながら講義を進める。

毎回，授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し，復習と更なる学びの材料とする。

#### 学修目標

身体と心，脳に関する話題を概観しながら，人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには，身体運動の基礎知識が不可欠である。

1)身体が動く仕組み（筋骨格系から脳までの機能と構造），2)運動制御と運動学習の仕組み，3)身体運動と心理学との関わりを学び，改めて人間を見直し，心の多様さについて考える。

#### 内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが，昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り：

1. イントロダクション（心と身体と環境とは「くっついて」いる。心のくっつける働きと分ける働き）
2. 骨の構造と筋肉の動き：筋肉のつき方，股関節の理解，二足歩行の進化学
3. 力を発揮する仕組み：腕ずもう必勝法，外力と反射，腱
4. カロリーの出し入れと動的平衡：カロリーの摂取と消費。分子生物学からみた「生きる」こと
5. 脳構造のイロハ：BrainVoyager Tutorを用いた脳構造の理解，脳の階層性，脳部位の概略，神経細胞
6. 脳の処理過程を楊枝で実習する：ニューラルネットでおやつ代計算
7. 脳の感覚運動系：運動野の階層，運動・感覚ホムンクルス
8. 環境とやり取りする脳：遠心コピー（自分でくすぐってもくすぐったくないのはなぜ？）
9. 気分・性格と運動：POMSで気分を測定，性格の特性論によるスポーツ参加者の分類，社会的学習理論
10. 運動と動機づけ：外発的vs内発的動機づけ，帰属と再帰属訓練（やる気とその維持）
11. 運動と記憶：記憶の分類，文脈干渉効果，記憶の定着過程（記憶が染み込むには時間がかかります）
12. 運動学習入門：運動学習の過程（「わかる」と「できる」は違うのです），フィードバックと汎化
13. 運動の発達：PHV年齢と最適な運動内容。幼児の運動能力と運動指導
14. ゲスト講師に伺う女性の身体と環境
15. まとめ

今年度はスポーツ心理学の分野に関する講義を2回分、増やす予定である。

内容の詳細は現在作成中であるので、上の講義内容はあくまで「昨年実績」に過ぎない。

純粋な講義でなく、簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので、講義内容について積極的に考え、自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し、討議の材料にする。

## 評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを事前に配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を箇条書きにして要点を整理する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については、授業の中で随時紹介する

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持っています。しかし、「基礎心理学（学習理論）」を活用する点では他の応用心理学と変わりません。「臨床心理学」と同様の病を扱いながら違う手法を用いる点に注目してください。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれます。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴です。

学修目標：

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解する。
- 2) 上記1)を踏まえ、人の心身に隠れている素敵な部分を活かしてより良い存在へ成長させていく方法を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な難関・苦難をクリアできるようなポイントを見いだせる。

## 内容

講義は「健康心理学」という興味深い学問を初めて学ぶことになる皆さんに習得してもらうため、まず基礎的な考え方や理論を学んで貰います。その後、講義が深まるうちに「健康心理学」らしい非常に実践的な技法を学びます。この内容は、学びが深まるにつれて理論と技術を一体に学ぶことができるようになっていきます。そんな風に講義が一連になっていますので、可能な限り全ての回に出席して下さい。

1	はじめに	ガイダンス
2	健康心理学の意義	「健康」と、それを「心理学」する意義を考える
3	健康心理学と臨床心理学	健康心理学を支える科学的な理論・技法と、臨床心理学の差異
4	健康心理学の各論	ストレスを科学する
5	健康心理学の各論	ストレスは、向き合えて、怖い存在ではなく対応できるもの
6	健康心理学の各論	人格（性格）の理解を深める
7	健康心理学の各論	人格（性格）と健康の関係を考える
8	病気を考える	生活習慣病（ライフスタイル）
9	病気を考える	心身症
10	病気を考える	こどもからおとなまで
11	健康を考える	予防と促進
12	健康を考える	心理教育の重要性
13	健康心理学の技法	心理アセスメント（人の健康を把握・理解する方法）
14	健康心理学の技法	心理的サポート（人の健康を支える・改善する方法）
15	まとめ	

## 評価

平常点(通常講義内に行われるレポート)を30点、筆記試験(期末試験)を70点、で総合評価60点以上が合格となります。満たない場合は再試験を、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は追試験を実施します。

## 授業外学習

【事前予習】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認しておく。

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 森 和代・石川利江・茂木俊彦 編『よくわかる健康心理学』2012 ミネルヴァ書房

【推薦書】 小林芳郎 編著『健康のための心理学』2006 保育出版社

【参考図書】 日本健康心理学会 編『健康心理学概論』2002 実務教育出版

科目名	創造性の心理学		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格： 2年次までに履修した心理学の専門科目を直接の基礎としているわけではないが、これまでに履修したさまざまな科目が陰に陽に関わってきて役立つであろう。また、この科目で学ぶ事柄は他のさまざまな科目の学習活動に必ずや役立つであろう。

科目の概要： 創造性に関する基本的事項についてしっかりと理解を図った上で、紙上エクササイズにおいて創造的思考の諸方略を実際に使用してみるにより、その方略の有効性をしっかりと知ると共に創造的思考力の向上を図ることを目的とする。

学修目標： まず創造性とは何か、問題発見の諸方法、創造的思考の過程についてしっかりと理解した上で、創造的思考の方略の使い方と有効性について紙上エクササイズを通じて体験的に学んでほしい。そのためには、授業に毎回出席し、紙上エクササイズの課題に真剣に取り組むことが大切である。

#### 内容

1. 創造性とは ( その意味と重要性、創造的思考力、創造的技能、創造的人格 )
2. 問題発見の方法 ( 問題とは、問題発見の諸方略 )
3. 創造的思考の過程 ( ワラスの4段階説ほか )
4. 創造的思考の方略 ~ < 拡張 >
5. 創造的思考の方略 ~ < 焦点化 >
6. 創造的思考の方略 ~ < 観点変更 >
7. 創造的思考の方略 ~ < 逆発想 >
8. 創造的思考の方略 ~ < 分類・分解 >
9. 創造的思考の方略 ~ < 加減 >
10. 創造的思考の方略 ~ < 結合 >
11. 創造的思考の方略 ~ < 変換 >
12. 創造的思考の方略 ~ < 類推 >
13. 創造的思考の方略 ~ < 反復検討 >
14. 創造的思考の方略 ~ < 弁証法的解決 >
15. まとめ

上記の事項について、毎回、教科書を使って ( 別途、資料を配布することがある )、講義形式で授業を行う。授業中には関連事項について質問を發して、挙手の形で答えてもらうという質問応答形式を取り入れていく。ただし講義形式での授業に先立ち、10分間ほど「事前シート」に取り組み回答し、提出してもらう。講義形式での説明が済んだ後、30分間ほど「本課題シート」に取り組み解答し、同じく提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。思考力は、スポーツやお稽古事等と同様、単なる知識の習得だけでは身に付かず、実際に実行してみることが不可欠だからである。

なお、毎回、「本課題シート」と同様のもの ( 「ホームワーク・シート」 ) を配布するが、それを持ち帰って再度取り組み、より完全なものにして翌週提出してもらう。これも平常点の資料となる。

このようにして、創造的思考の方略について理解を深めるとともに、創造的思考力を紙上エクササイズによって体験的に



伸ばしていくことをねらっている。

## 評価

平常点つまり毎回の授業中の「本課題シート」と「ホームワーク・シート」の出来栄え(50点)、筆記試験(50点)。計60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】可能なかぎり、前もって教科書を読んでおく(毎週10頁程度)。

【事後学修】毎回、授業の終了時に配布される「ホームワーク・シート」(授業で扱った内容の復習と補完をねらったもの)を完成させて、次の週に提出する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川? 成著 『クリエイティビティの心理学』 金子書房

【推薦書】高橋誠編著 『新編 創造力事典』 日科技連出版社

【参考図書】日本創造学会編 『「驚き」から「閃き」へ(創造性研究9)』 共立出版

科目名	生徒指導		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。

##### 科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性が深まり、指導の組織と計画、生徒理解の方法、進路指導等についての実践力が身につく。そのためにも、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に積極的にかつ真剣に取り組むことが大切である。

#### 内容

1	1.はじめに ( 生徒指導の意義と課題 )
2	2 . 教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観
3	3 . 集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導
4	4 . 教育課程と生徒指導
5	5 . 児童生徒の心理と児童生徒理解
6	6 . 学校における生徒指導体制
7	7 . 生徒指導における教職員の役割、基本的な生活習慣の確立
8	8 . 児童生徒の安全に関わる問題、いじめ問題への対応
9	9 . 問題行動の早期発見と効果的な指導、発達に関する課題と対応、不登校生徒への対応方法
10	1 0 . 問題行動の対処や命の教育の実践方法 ( とくにいじめ問題に対する取り組みの方法 )
11	1 1 . 生徒指導に関する法制度等
12	1 2 . 地域社会における児童生徒
13	1 3 . 学校を中心とした過程・地域・関係機関等との連携
14	1 4 . 社会の形成者としての資質の涵養に向けて
15	まとめ

#### 評価

授業中に課す課題への取り組みに対する授業態度 ( 1 5 % )、レポート ( 1 5 % )、筆記試験 ( 7 0 % )、さらに2 / 3以上出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】基本的には使用テキストを活用した授業であるが、1時間以上はそのテキストを事前に読み込んでおくこと。

【事後学修】授業で扱った箇所を重点的に1時間以上は復習することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省

【推薦書】「現場で役立つ生徒指導実践プログラム」新井肇 編著 学事出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 【科目の性格】

発達心理学科の教育・保健領域の科目である。近年、学校現場で生じているさまざまな現象や発達と教育に関わる心理学的課題を抱える児童生徒に対して、教育相談に必要な基本的な知見を獲得する。また、実際どのように活動していくのかについて学ぶ。

なお、本講義は教職過程科目の「教育相談」と同時開講とする。

#### 【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

#### 【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

#### 内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障碍
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

#### 評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】事前にキーワードを調べておくことを推奨する。

【事後学修】授業ノートをまとめる，関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

小林正幸他編 「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ 2008

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	子どもの生活支援		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている。他学科開放科目としている。

科目の概要：

子どもとは、形態的にも機能的にも成長発達の途上にあり、すべてが未完成であり、未熟であり、内外的環境の影響を受けて成長発達していく。ここでは特に乳幼児期の子どもを中心に、健全な成長発達を促進するための基本的な生活援助の知識と技術を学習する。また、子どもの未熟性から生じる健康障害に対する看護についても学習する。さらに、子どもを取り巻く社会資源など社会とのかかわりについても学ぶ。

学修目標：

- 1．乳幼児の子どもの心身の成長発達が理解できる。
- 2．乳幼児期の子どもの日常生活での養護が理解できる。
- 3．病気の子どもの看護が理解できる。
- 4．乳幼児の安全管理と応急処置が理解できる。
- 5．子どもを取り巻く社会の現状について、説明できる。

内容

講義、養護の実技、グループワークとプレゼンテーションにより展開する。授業では実技実習もあるため、受講生が多数の場合は、受講人数を制限（上限64人）します。

1	子どもと成長発達
2	子どもの成長・発達（形態機能の発達）
3	子どもの成長・発達（生理機能の発達:呼吸・循環・体温・消化機能）
4	子どもの成長・発達（生理機能の発達:腎機能・内分泌機能・免疫）
5	子どもの成長・発達（脳神経・運動機能の発達）
6	乳児の生活と養護（抱っこ・授乳）
7	乳児の生活と養護（衣服着脱とおむつ交換）
8	乳児の生活と養護（沐浴）
9	乳児の生活と養護（沐浴）
10	乳幼児の病気と看護（小児感染症を中心に）
11	グループワークプレゼンテーション（子どもの発達としつけに関するテーマ）
12	グループワークプレゼンテーション（子どもの育児環境と親に関するテーマ）
13	グループワークプレゼンテーション（子どもを取り巻く社会問題に関するテーマ）
14	乳幼児の病気と看護（子どもによく見られる症状に対する看護）
15	乳幼児の安全管理と応急手当

評価

授業への参加状況（20%）、学生のプレゼンテーション（30%）、レポート（50%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】TVの育児支援番組（NHK）を見ておきましょう。

【事後学修】学びを基に、乳幼児を観察してみましよう。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大西文子編著 『子どもの保健演習』 中山書店

【推薦書】千羽喜代子、吉岡毅、長谷川浩道 『実習育児学』 日本小児医事出版

瀬江千史 改訂版 『育児の生理学 医学から説く科学的育児論』 現代社

日本外来小児科学会編著 『お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド』 医歯薬出版

科目名	養護概説		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校保健、 の学習を基礎として、養護教諭が行っている職務内容を理解し、養護教諭として諸活動を実践する能力を養うことを目指す。学修目標は 学校保健における養護教諭の職務を理解する。 養護教諭の活動に必要な実践力を身につける。

#### 内容

1	学校教育・学校保健と関連法規について
2	養護教諭の歴史と職務内容の変遷について
3	養護教諭に関する法律・審議会答申について
4	養護教諭の職務について
5	健康診断の目的と計画立案について
6	健康診断の種類と測定方法について 1
7	健康診断の種類と測定方法について 2
8	健康診断の事後措置について
9	健康診断実施の工夫について
10	健康観察の目的・方法・事後措置について
11	健康観察の実際、実施の工夫について
12	子どもに多くみられる病気の理解と管理について
13	疾病の管理の実際について
14	養護教諭の行う健康相談について
15	まとめ

#### 評価

筆記試験 ( 小テストを含む ) 8割、通常の授業の提出物及び授業の参加態度を 2 割として評価し、 60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 毎回予習のための課題を出す。 1 時間程度の予習が必要である。
- 【事後学修】 学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

教科書：新養護概説<第9版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社



科目名	健康相談活動		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

子どもの健康問題に関して、医学的な知識をもとに発達心理学で学んだ知識・技能も活用しながら心身の問題に対して、的確なアセスメントや対応ができるための知識と技能を学ぶ。

#### 科目の概要

「学校保健」「養護概説」で学んだ健康相談に関する答申や法律、養護教諭の職務の特質、健康相談のプロセス等を再度確認する。その上で養護教諭として子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントの視点、対応方法を演習を取り入れながら学習する。さらに、学級担任や保護者との連携方法も演習を取り入れながら具体的に学習をする。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

健康相談の基本的なプロセスを理解し、各事例に応じて子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントができ、その対応方法を考えることができる。

内容	
1	健康相談の重要性と法的根拠
2	学校における健康相談の基本的理解
3	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 1
4	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解 2
5	健康相談における養護教諭、学級担任、学校医等の役割
6	健康相談のプロセス 1
7	健康相談のプロセス 2
8	健康相談における基本的な技術及び留意点
9	役割演技による相談の実際 1
10	役割演技による相談の実際 2
11	役割演技による相談の実際 3
12	役割演技による相談の実際 4
13	学校における健康相談の進め方と支援体制づくり
14	事例検討会の手順と方法
15	まとめ

#### 評価

筆記試験7割、演習に対する取り組み態度を3割として総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試

験を実施する。

#### 授業外学習

【事前予習】2年次までに取得している「養護概説」の健康相談に関する内容をまとめておくこと。

【事後学修】関連科目とのつながりも含めて、授業で学んだことをまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】[養護概説] 采女智津江他 少年写真新聞社

【参考図書】「教職員のために子どもの健康相談及び保健指導の手引」 文部科学省 平成23年

科目名	衛生学		
担当教員名	佐藤 一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

ねらい：主に感染症について講義する。感染症を防ぎ、健やかな日々を送るためには知識や経験に基づく適切な予防が重要である。特に、養護教員を目指す学生は、微生物学について幅広い知識を必要とする。そのため、感染症予防のため発生要因 ( 感染源、感染経路、感受性者 )、病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症について講義する。これにより、感染症に対する予防などを行うための基礎的な知識を身につけることを目標とする。

#### 内容

1	感染症に関する基本的理解
2	感染症成立のための三要因
3	免疫
4	細菌1
5	細菌2
6	ウイルス
7	真菌
8	原虫
9	寄生虫
10	感染症の診断・治療・予防・防御
11	感染症各論1
12	感染症各論2
13	感染症各論3
14	感染症の疫学
15	まとめ

#### 評価

評価：毎回実施する豆テスト30%、期末試験70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

#### 授業外学習

事前学習：事前に当該単元や関連書籍を通読しておくことが望ましい。

事後学修：何を理解し、何が理解できなかったのか整理し、次回講義時に質問できるようにまとめる。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】本田武司 ( 編 ) はじめの一步のイラスト感染症・微生物。羊土社。ISBN978-4-7581-2023-4。

【参考書】日本学校保健会 ( 編 ) 学校において予防すべき感染症の解説。丸善出版。ISBN978-4-903076-11-9。

阿部章夫 ( 著 ) もっとよくわかる！感染症 病原因子と発症のメカニズム。羊土社。ISBN978-4-7581-2202-3。

池内昌彦 他「エッセンシャルキャンベル生物学」丸善。ISBN: 978-4-621-08399-4。など。

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている選択科目である。 教員免許  
取得希望者、社会福祉主事任用資格取得希望者を中心として授業を進める。

#### 科目の概要

公衆衛生は「公の衆の生を衛る」という意味であり、集団における健康を社会や環境との関連の中で、疾病の予防と健康の保持・増進を図るためにはどうするかを考えていく学問である。

健康と疾病との関係について予防対策を軸に、関連統計情報や社会的報道等を資料として、教員や社会福祉主事になった際に応用できる身近な学問としての公衆衛生学を展開していく。

今年度はカリキュラム移行期のため受講生が多数となる事が予想されます。各自が積極的に授業に参加するようにしてください。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- ・健康とはどのような状態であるか説明できる。
- ・健康づくりのための予防医学の方策を具体的に説明できる。
- ・保健統計の数値とその意義を適切に説明できる。

内容	
1	オリエンテーション 公衆衛生学序論
2	保健統計
3	保健統計
4	疫学
5	疾病予防と健康管理
6	疾病の予防
7	疾病の予防
8	健康政策と衛生行政、筆記試験
9	環境保健
10	環境保健
11	母子保健・学校保健
12	産業保健
13	高齢者保健
14	国際保健医療、筆記試験
15	試験の解説、まとめ

## 評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。授業への参加度30%、2回の筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

## 授業外学習

- 【事前準備】日頃から新聞やニュースなどの官公庁が発表する公衆衛生データを読んでおくこと。
- 【事後学修】授業の理解と定着のために毎授業ごとに短時間の復習が必要。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】鈴木庄亮・久道茂編 シンプル衛生公衆衛生学2015 南江堂  
講義に応じたプリントをその都度配布する。
- 【推薦書】厚生労働統計協会「国民衛生の動向2015/2016版」
- 【参考図書】高校で使用した保健体育科の教科書

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

学修目標：

- 1．看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
- 2．看護における観察の意味がわかる。
- 3．日常生活において、人間のニーズ充足のための看護援助が理解できる。
- 4．体調の不調を訴えた際の基本的な看護援助が説明できる。

内容

\*後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	疾病予防と看護
4	看護における観察
5	日常生活における看護 安楽と環境調整と睡眠・休息
6	日常生活における看護 栄養・食事と排泄
7	日常生活における看護 身体の清潔保持
8	看護学概論（総論）のまとめ
9	不調を訴えた人への看護 電法
10	不調を訴えた人への看護 発熱、痰・咳、呼吸困難のある人への看護
11	不調を訴えた人への看護 嘔気嘔吐、排便障害、脱水のある人への看護
12	不調を訴えた人への看護 浮腫、腫脹、褥瘡、発疹のある人への看護
13	不調を訴えた人への看護 めまい、疼痛のある人への看護
14	救急対応と看護
15	看護学概論（各論）のまとめ

評価

レポート（20点）、筆記試験（80点）により評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に、各單元ごとに教科書を読んでおいて下さい。健康に関するTV番組を見るようにして下さい。

【事後学修】各單元ごとに教科書・配布資料をまとめたノート等を作って下さい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】萱場一則編著 『暮らしの看護』建帛社

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

## 内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン (呼吸・脈拍・血圧)
3	バイタルサイン (体温・意識)
4	バイタルサイン (測定実習)
5	フィジカルアセスメント (総論)
6	フィジカルアセスメントと看護 (各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔)
7	フィジカルアセスメントと看護 (各論：胸部・腹部・四肢・脳神経)
8	感染防御 (基礎知識)
9	感染防御 (滅菌消毒方法)
10	感染防御 (消毒薬の用途)
11	感染防御 (嘔吐物の処理実習)
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	搬送と救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

## 評価



授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房  
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房  
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社  
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

- 1．バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
- 2．フィジカルアセスメントが適切に行える。
- 3．感染防御の基礎について説明できる。
- 4．急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

## 内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）
3	バイタルサイン（体温・意識）
4	バイタルサイン（測定実習）
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法）
10	感染防御（消毒薬の用途）
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）
12	看護過程とSOAP
13	多様な急性期症状のアセスメント
14	搬送と救急時の対応
15	看護援助方法のまとめ

## 評価

授業・実習への参加状況（10%）、レポート（10%）、筆記試験（80%）により評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になります。教科書をよく読んから、授業に参加すること。

【事後学修】教科書・配布された資料をまとめたノートを作成しましょう。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房  
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』東山書房  
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社  
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

##### 科目の概要：

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護援助を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

##### 学修目標：

1. 学校感染症の特徴と看護について説明できる。
2. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
3. 子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

#### 内容

1	子どもの身体の解剖生理（筋骨格・目・耳・歯）
2	子どもの身体の解剖生理（内臓の生理機能）
3	子どもの健康状態の把握
4	学校感染症（第1種）
5	学校感染症（第2種）
6	学校感染症（第3種）
7	子どものアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）
8	子どものアレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）
9	子どもの腎疾患（糸球体腎炎・尿路感染症）
10	子どもの腎疾患（ネフローゼ症候群・尿検査）
11	子どもの心疾患（先天性心疾患）
12	子どもの心疾患（川崎病・不整脈と心電図）
13	子どもの糖尿病と肥満
14	子どもの脳神経系の疾患
15	小児保健看護学のまとめ

#### 評価

授業に対する意欲・関心（10%）及び、3回の筆記試験（90%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】解剖生理学を復習し、单元ごとに教科書を読んでから授業に臨んで下さい。また授業の中で指定した資料については、各自でインストールし、印刷し持参すること。

【事後学修】配布資料と教科書等をまとめたノート作りをして下さい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著 『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』 東京書籍  
「看護援助方法」で使用した教科書も使う

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K  
満留昭久 『学校の先生にも知ってほしい慢性疾患の子どもの学校生活』 慶應義塾大学出版会

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂  
坂井建雄・橋本尚詞 『ぜんぶわかる人体解剖図』 成美堂出版

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格:

心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。

科目の概要:

学内での講義・ロールプレイと学外での臨床講義によって展開する。ここでは、看護の視点で子どもの健康保持のために養護教諭として適切な判断と対応ができるための基礎的能力を培う。

学修目標:

1. 感染管理に関して、学校現場にあてはめた場合、どのように取り扱うことがよいか考え、適切な対処や行動をとることができる。
2. 慢性疾患や障がいのある子ども達を地域の学校(特別支援学校を含む)で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
3. 身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切な看護ケアが実施できる。
4. 命や性の教育について、考えることができる。

内容

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」の単位を修得している学生を対象とする。

1	ヘルスアセスメントと救急処置のプロセス
2	外科系疾患の重症度の見極めと対応
3	内科系疾患の重症度の見極めと対応
4	スポーツ障害
5	創傷保護と包帯法技術実習
6	身体不調や異常を訴える子どもへのフィジカルアセスメントと対応
7	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (発熱・頭痛・倦怠感)
8	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (腹痛・嘔気嘔吐・呼吸困難)
9	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (掻痒感・外傷・打撲)
10	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ (意識障害・けいれん・不定愁訴)
11	臨床講義 (病院の機能と役割、他職種との連携と機能、病院における感染管理の実際)
12	臨床講義 (小児救急看護の実際)
13	臨床講義 (慢性疾患および障がいのある子どもへの看護、病院と学校との連携)
14	臨床講義 (生命と性の教育)
15	臨床看護実習まとめ

評価

授業・実習の参加状況（50%）およびレポート（50%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】これまでの授業の総括になるため、今まで学習してきたものを復習しておくように。

【事後学修】実技で体験したこと等は、何度も繰り返し練習し、身につけるようにする。臨床講義で学習したことは、学校現場でどのように活かせるのか考察する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A教師のための救急百科』 大修館書店

加藤英治 『症状で見る子どものプライマリ・ケア』 医学書院

大谷尚子他編著 『養護教諭のためのフィジカルアセスメント見て学ぶ応急処置の基礎基本』 日本

小児医事出版

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

科目名	卒業研究		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。



## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。



## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。



## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を定める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を計画的に行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

4年次の必修科目である。

##### 科目の概要

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究は最初を書く学術論文といえる。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開し、文章化することである。学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

##### 学修目標 (= 到達目標)

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

#### 内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・ 先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 方法を決める。
- ・ 実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・ 結果の分析、考察を行う。
- ・ 以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・ 研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・ 文献や資料を集め研究する。
- ・ 以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。



## 評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究を円滑に進めるために、文献を読み、実験・調査・観察・面接等の準備をし、必要があれば統計的な処理について予習すること。

【事後学修】担当教員の指導に基づき、分析や論文執筆を行うこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。